

# 流山 九条ニュース

「九条の会・流山」事務局

阿部 7140-7605 石林 7154-7511

齋藤 7143-0374 三原 7152-6559

2008.12.10 NO.34



「九条の会・流山」 HP : <http://www.nagareyama9.org/> メール : [info@nagareyama9.org](mailto:info@nagareyama9.org)

## 会員を増やしましょう

2003年の7月に準備会を発足させて以来、九条の会として何らかの活動をする人を「呼びかけ人」として活動してきましたが、今回呼びかけ人会を開き、会員制に改めることにしました。

①呼びかけ人制を解消して会員制とし、いままでの「呼びかけ人」はできるだけ世話人になっていただく②会員名簿は作るが当面は会費は徴収せず、カンパの形で呼びかけて財政を維持する。③大江健三郎氏など9氏の九条を守るアピールへの賛同者を増やしながらか当面会員拡大に努める⑤会報を発行する(できるだけ手渡しやメールを活用し負担を少なくする。)などを申し合わせました。

### 定例駅頭宣伝

「九条の会・流山」では毎月9日に定例の宣伝活動をしています。当分の間毎月9日を曜日に関わらず15:30~16:30おおたかの森駅でハンドマイクとチラシ配布の宣伝活動をしています。少しの時間でも結構です。ご都合がつかましたらご参加ください。

1月は9(金) 15:30~16:30

流山おおたかのもり駅

### 成人式の若者たちに訴えを

例年成人式に集まる若者たちに九条の大切さと訴える宣伝のチラシ配布をしています。ぜひご参加下さい。

日時 2009年1月12日(月) 12:00~

場所 流山市文化会館

**世話人募集** 九条の会・流山では世話人を募集しています。世話人会はほぼ月1~2回開き、会の活動、講演会の計画などについて相談し実行に携わってきました。手弁当です。

新しいメンバーが加わって頂ければ、その中でアイデアを出し合い、活動の幅を広げることが出来ます。平和憲法をなきものにし、日本を再び戦争に引き込もうとする動きを懸念されている方は多いでしょう。何らかの形で活動に加わりませんか?

### カンパのお願い

会費を徴収せず、みなさんカンパで運

営しています。ご協力ください。世話人にお届けいただくか、下記に振込みでお願いします。

振込先 郵便口座 0013-5-464735

口座名 九条の会・流山

## 劇映画「いのち輝く

### 「日本の青空 Ⅱ」製作運動開始

映画「日本の青空」は昨年流山でも取り組み「日本の憲法は日本人が作った憲法として確信が持てた」と好評でした。あの大澤豊監督が同じ会社で憲法25条を活かそうと新たな映画製作を始めました。日本で最初に老人・乳幼児の医療費無料化に取り組み乳幼児死亡ゼロを達成した岩手県沢内村が舞台です。私達も協力することを決めました。

製作協力券 1000円

券の普及と上映運動にご協力いただける方、ご連絡下さい。

### ポスターができました。

自宅などに掲示できる方は活用してください。

「九条の会・流山」のホームページで見られます。

<http://www.nagareyama9.org/>

会員の皆様、今回からこのようなニュースをお届けすることにしました。

## 航空自衛隊イラクから撤収

11月28日 航空自衛隊によりイラクからの撤収命令が出ました。開戦の正当性もないことが明らかになる中でイラク攻撃に参加した多くの国が手を引き、国内でも批判が高まっていました。4月にはイラクへの自衛隊派遣は憲法違反との名古屋高裁の判決も出されています。しかしインド洋での給油活動は何としても継続する構えです。

陸上自衛隊は2006年7月に撤収しています

## クラスター爆弾禁止

一個の爆弾から数百の子爆弾が飛び散って無差別に殺傷する非人道的兵器として国際的に禁止条約が成立、日本政府も認めざるを得ませんでした。(いまだにアメリカなどは同意せず)。しか日本政府は廃棄に同意したもののその調査費として2億円!さらにこれに代わる新たな新型誘導弾の導入を予算要求しています。

## 全国の「会」は7294に

### 第3回全国交流集會に900人余

11月24日、第3回全国交流集會が開かれ全国から会場いっぱいの926名が参加しました。小森陽一事務局長は開会あいさつのなかで、この1年間に「会」は493増えて7294になったことを報告しました。

全国交流集會には、呼びかけ人の大江健三郎さん、奥平康弘さん、澤地久枝さん、鶴見俊輔さんの4氏が出席し、冒頭にあいさつ。

交流集會は午前の全体会を受けて、午後は10の分散会と青年・学生と職場の2つの分科会がもたれました。

### 特別報告(要旨)

日本国際ボランティアセンター代表理事

谷山博史

私はNGOで活動してきた23年のうち12

年を、カンボジアやアフガニスタンなど紛争地域で、平和について考えてきました。私たちの信念は、「非暴力による問題解決は可能だ」ということであり、対話が最も重要です。「対テロ戦争」は対話の否定です。

最近のアフガンの情勢を見ると、展望はまったくありません。民間人の犠牲も増え、空爆による犠牲者は今年も242人も出ています。タリバンなど、さまざまな武装勢力が盛り返し、外国軍の犠牲者を減らすために空爆の頻度が拡大しています。

援助関係者の被害も拡大しています。ことし9月の時点で援助関係者の被害者は26人。イギリスのシンクタンクがまとめたレポートでは、アフガンの人たちは、「外国軍は自分たちを守るのではなく、自分たちを攻撃する」「自爆テロは自衛のためにしょうがない」という認識があるといっています。

ジャララバードで米軍の空爆があり、37人が亡くなり、7人が行方不明になりました。赤十字国際委員会の調査でも民間人に対する空爆でしたが、米軍は「テロリストを空爆した」と言い張っています。

OEF(「不朽の自由作戦」)とISAF(国際治安支援部隊)の活動が統合され、中立であるべき人道支援活動が軍事活動の「武器」とされ、私たちも軍と関係あるのではと反発を受けるようになりました。

昨年、自民党はインド洋で自衛隊の給油活動を継続する法案、民主党はアフガン本土に自衛隊を派兵する法案を出しました。どちらも現場の状況を全くみていません。

日本はアフガンの紛争当事者が参加する包括的な平和による解決を目指し、その仲介を行うべきです。日本は憲法9条と前文を合む平和の原理・原則を持っているからこそ、自衛隊によらない紛争の解決、その他の国際貢献ができるという前向きなチャンス、アフガンで生かしていただきたい。

(九条の会のニュースから抜粋)